

目標	指標	指標の説明	令和6年度	令和6年度の評価・課題	(目標数値)	備考
					令和10年度	(目標設定の考え方)
1 県内の図書館との連携と協力の推進	① 相互貸借(協力貸出)冊数	相互貸借とは、図書館同士で書籍や資料の貸し借りを行なうことで、県立図書館が所蔵している資料を市町村図書館、高校図書館等へ貸出した冊数。なお、幼稚園や小学校等の団体への貸出は協力貸出に該当しないためこの指標には含まない。	9,530冊	目標には達していないがコロナ以後、1万冊弱で推移している。全県の市町村図書館及び大学、高校、特別支援学校図書館等に協力貸出ができる体制を維持している。	毎年11,000冊以上	
	② 横断検索による検索数	横断検索とは、公共図書館、大学図書館などがインターネット上に公開している蔵書のデータベースを一度に検索できるシステムのこと、県内公共図書館等の蔵書を検索できるよう県立図書館がシステムを構築し公開している。	89,145件	県内の市町村図書館及び大学図書館の蔵書をまとめて検索できる横断検索の件数は昨年度と比較して減少しているが、当館のみの蔵書検索の件数は維持している。	128,500件	5年後に10%増加
	③ 県内公共図書館の県民一人あたりの個人貸出冊数	「島根県公共図書館年報」により公開されている県立図書館及び県内市町村図書館等の個人貸出冊数総数の合計を、「島根県推計人口」で割ったもの。	4.35冊 (2,764,076冊/ 635,184人)	昨年度と比較すると貸出総数は減少しているが、松江市中央図書館がR5.10月にリニューアルオープンし、来館等による貸出冊数がR5:213,631冊→R6:349,424冊に増加したこと、島根県の推計人口が約64万から約63万に減少したことで、県民一人当たりの個人貸出冊数に増減がなかった。	毎年4.8冊以上	平成30年度実績 4.81冊
2 県民や地域の課題解決に役立つサービスの提供	④ 遠隔地利用者図書貸出サービス(絵本バッグを含む)の利用件数	遠隔地利用者図書貸出サービスとは、県内利用者(松江市除く)に最寄りの図書館まで本を届けるサービスのこと。	883件	オンライン利用者登録を開始した11月以降、利用件数が微増している。今後も、直接来館しなくても最寄りの図書館(松江市を除く)を通じて県立図書館の資料が利用ができることを周知する必要がある。	1,600件	毎年10%増加
	⑤ バリアフリー資料貸出冊数	⑤で扱うバリアフリー資料とは、館内所蔵の大活字・点字・LL・DAISYの4種類のことをさす。(R7.4現在の蔵書数:2,849冊)	2,555冊	バリアフリー資料の中では大活字本の貸出が多く、高齢者を中心に利用されている。令和6年11月からデジジー図書ダウンロードサービスを開始したことで、県立図書館で所蔵しているデジジー資料(CD-ROM形式)の貸出は今後減少すると思われる。バリアフリー資料の活用について、必要とされる当事者に利用方法等が届くよう広報する必要がある。	3,900冊	大活字・点字・LL・DAISYの貸出冊数
	⑥ ホームページアクセス数	県立図書館ホームページのうち、トップページへのアクセス数。ただし、トップページを経由せず、直接検索画面等にアクセスする場合はカウントされない。	198,979件	昨年度から微減している。蔵書検索のページなどトップページを経由しない閲覧が多いためと推測される。	238,000件	トップページ閲覧数、毎年3%増加
3 子どもの読書活動の推進	⑦ 子どもの本に関する情報提供件数	図書リストの提供、書評等による本の紹介など、ホームページやメディアを活用し、子どもの本に関する情報発信をした件数。	15件	「おすすめしたいこどものほん」「書評雑誌に掲載された子どもの本」等、子どもの本に関する情報提供を、リスト配布、HP公開、新聞書評により行った。中・高生向けの図書リスト充実を図るため、ジュニアコーナーでの展示に合わせて防災に関するリストを作成した。引き続き子どもの読書に関わる大人への支援のため情報提供を行う必要がある。	毎年15件以上	図書リスト、書評などHPや新聞等による情報提供
	⑧ 学校司書等を対象にした研修会に対する図書館職員の満足度(5段階評価)	学校司書、公共図書館職員を対象に実施している学校司書研修、専門研修、出前研修において、参加者アンケートを実施し、研修についての満足度を5段階で評価してもらう。	4.83	該当の研修は12件で195名のアンケートを集計したところ、5段階評価のうち「よかった」が164名、「まあよかった」が29名、「ふつう」が2名で、多くの参加者に概ね満足してもらえる結果となった。引き続き参加者のニーズをとらえ、適切な研修を提供する必要がある。	平均4以上	学校司書研修、専門研修、出前研修の満足度
4 知の拠点として調査・研究の支援	⑨ レファレンス受付件数	レファレンスとは調査・相談のことで、調査種別には「所蔵調査」「文献調査」「事実調査」がある。個人・団体から、窓口、メール、ファックス等で受付している。	6,307件	国立国会図書館をはじめとする各機関がWeb上で様々なツールを整備し、デジタル資料の利用も増え、人々の探索行動が大きく変化している。レファレンスも軽微なものから、高度化・細分化傾向にある。こうしたことを踏まえて図書館の強み(物的・人的)を活かしたサービスを追究する必要がある。	毎年10,000件以上	
	⑩ レファレンス協同データベースでの情報公開件数	レファレンス協同データベースとは、国立国会図書館が全国の図書館等と協働で構築している調べ物のためのデータベースで、「レファレンス事例」「調べ方マニュアル」など、インターネットを通じて公開、提供している。	50件	情報公開の内訳として、レファレンス事例15件、調べ方マニュアル4件、特別コレクション31件の計50件を公開した。	毎年50件以上	事例、調べ方マニュアル、特別コレクションの公開数
	⑪ しまねデジタル百科でのデジタル化資料公開点数	しまねデジタル百科とは、県立図書館が所蔵する古絵図、古書等をデジタル化しインターネット上で公開しているホームページ上の名称。	5件	「出雲月山富田城下絵図」「松江城下絵図」「出雲国絵図」「杵築出雲大社図」「石見国美濃郡飯浦村長門国阿武郡下田万村経界実測図」を新たに公開した。	毎年5点以上	毎年5点公開
	⑫ 郷土資料の掲載・放映・出展件数	博物館等での展示で使用されたり、出版物やwebメディアで掲載されたりした、県立図書館所蔵の郷土資料の利用件数。	50件	大学、博物館、新聞社、出版社など、様々な団体等から郷土資料の掲載、放映、出展に関する依頼があった。引き続き、郷土資料を有効活用してもらえるよう資料提供を行う。	毎年40件以上	出版物やwebメディア等への掲載、テレビでの放映、展覧会への出展等

参 考 指 標	令和5年度	令和6年度	前年比
入館者数	218,608人	198,190人	▲20,418人
個人貸出冊数(来館・郵送)	295,081冊	236,520冊	▲58,561冊
受入冊数	13,356冊	12,424冊	▲932冊
蔵書冊数(館内用)	720,182冊	715,644冊	▲4,538冊